人のいる風景
SCENERY OF PEOPLE

三浦 賢悟 さん

KENGO MIURA

SCENERY OF PEOPLE

【みうら けんご さん】東丘／42歳
●札幌出身。大学卒業後、東京でサラリーマン生活を送る。平成13年に千歳で就農。現在、1,500羽の鶏を飼育し卵を出荷しているほか、約18ヘクタールの畑で野菜などの有機栽培に取り組む。詳しくは三浦さんの農場、「はるか農園」(☎(21)３２６１)にお問い合わせください。

都会にはない、田舎暮らしの魅力を伝えたい

千歳の東部には、ゆるやかな丘陵地帯に広大な農地が広がり、四季折々に美しい景色をつくり出しています。

平成13年にこの場所で就農した三浦賢悟さんは、有機栽培にこだわった農業に取り組んでいます。その取組が評価され、北海道農業開発公社の平成21年度新規就農優良農業経営者表彰で優秀賞を受賞しました。

「大学を卒業するまで、将来自分が農業に関わると想像したことはありませんでした」と話す三浦さん。

三浦さんが農家を志すきっかけとなったのは、無農薬栽培に取り組む一軒の農家との出会いでした。

「『本気で有機栽培で農業を目指すなら』と、その農家で取り組んでいるすべてのことを教えてくれました。つくり手の気持ちで農作物が変わることを学び、生きものを育てる農業の魅力を改めて実感しました」と話します。

就農を決意した三浦さんは、市内の若山牧場で1年半の実習を受けました。「親方の若山さんは、農業の基本を知らない私を辛抱強く育ててくれました。就農後も、大切な農機具を快く貸してくれるなど、私にとって大きな支えとなりました」と当時を振り返ります。

また、就農当初は家に水道がなく、地域の方の協力を得て井戸を掘りました。「困ったときはいつでも地域で支え合っています。普段の生活でもお互いの農家が作物を分け合うなど、田舎暮らしには**人のこころのつながり**があります」と三浦さん。「就農して、田舎暮らしを始めて本当に良かった」と話します。

昨年から新たに稲作を始めました。一緒につくることを目的に、田植えや草取り、収穫作業は一般募集した約50人の参加者と行いました。

自分の手で農作物をつくることには大きな喜びがあります。「参加した皆さんが、1年間の稲の生長に驚いていました」と話します。

「都会では味わえない田舎暮らしの魅力を、これからもたくさんの方に伝えたい。その中から、私のように農家を目指す方が誕生するとうれしいですね」と、しっかりとしたまなざしで語ってくれました。